大正四年六月二十一日第三種郵便物認可（毎月一日一回發行）

京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第二十五卷　第一號

昭和二年七月一日發行

論叢

公益團體の課稅……法學博士　神戸正雄

マルクスの農業勞働者に關する見解……法學博士　河田嗣郎

ミルのエソロヂー論……文學博士　米田庄太郎

時論

上海中立に關する一考察……法學博士　末廣重雄

說苑

宗門人別改制度の沿革……經濟學士　菊田太郎

工業分布論に關する文獻……經濟學士　黑正巖

雜錄

精神勞働者と獨逸所得稅法……法學士　汐見三郎

獨逸都市に於ける乘合自働車交通……經濟學士　山口信男

スミスとリストの經濟發達階段說……經濟學士　上田藤十郎

京都帝國大學經濟學會大會記事

法令

國債整理基金特別會計法中改正・不良住宅地區改良法・土地賃貸價格調査委員會法・土地賃貸價格調査委員會法施行規則

（禁轉載）

スミスとリストの經濟發達階段說

上田藤十郎

キール大學教授 Sven Helander 氏は其著 Die Ausgangspunkte der Wirtschaftswissenschaft, 1923 に於て、「アダム・スミスとリストの經濟發達階段說」と題し、興味ある研究を載せてゐる。彼は該論文に於て、スミスの國富論より數多の章句を引用し、之をリストの經濟發達階段說と併行比較し、其の類似の點あるを指摘し、以てリストの經濟發達階段說はスミスにその萌芽を發せるものなるべしと主張してゐる。私は次に彼の研究の結果を紹介しやうと思ふ。

『我々はアダム・スミスに於ける一理論を、多くの引用句を集める事によつて論證しやうとしても、スミスに於ける凡べての事柄が一般的に論證せられるといふ譯でもないから、かゝる企をなす事が危險である事は充分承知してゐる。

嘗て、Harms は Volkswirtschaft und Weltwirtschaft, S. 27 に於て、經濟階段に關する思想が、既に、Storch (Cours d'Economie politique, 1823 の第三卷一〇三頁、一六九頁參照。從つてリストは誤つて論ぜられてゐるかも知れぬ。)に存在せる事を認めてゐる。そこで余はハルムスに刺激せられ、此方面に於けるアダム・スミスを研究した結果、經濟階段に關する非常に多くの章句を發見したから、それを此處に引用するの價値ある事を發見したのである。固よりスミスに於ける思想はリストに於けるが如く根本的意義を有しなかつた事は注意しなければならぬ。併しリストの各經濟階段說とスミスの思想とが如何に符合してゐるかは次に示す所によつて明かであらう。

A、リストの狩獵及漁業時代

最低最未開の社會狀態にある狩獵民族(國富論キャナン版第二卷一八六頁)[1]

社會の第一期卽ち狩獵民の時代(同上第二卷二〇五頁)

B、リストの牧畜時代

是よりは更に進步した社會狀態にある牧羊民族間に於ては……(同上第二卷一八六頁)

社會の第二期卽ち牧羊民の時代(同上第二卷二〇五頁)。

富、財產の不平等が先づ最初に起るは、社會の第二期たる牧羊民の時代に於てである。(同上第二卷二〇七頁)

C、リストの農業時代

更に一層進步せる社會狀態(卽ち牧羊民の

1) Helander は Basel 版より引用してゐるが私は便宜上 Canan 版によつた。

時代よりも一層進歩せる社會を指す。同上第二卷一八六頁）を出現し、然かも殆んど外國貿易が行はれず、又殆んど各私人の家族が自家用の爲にのみ調製する粗末な自家製造品の外は、他に何等の製造品の存在せざる社會が出現する。かゝる社會の農民民族の間に於ては、各人は戰士たり、或は容易に戰士となる。農業によりて生活する人々は、身を四時の寒暑風雨に曝して一般に戶外で終日を過す。（同上第二卷一八八頁）

D、リストの農工業時代

彼等の土地の剩餘生產物の不斷の增加は、（彼等とは農業民族を指す。同上第二卷一六八頁）普通利潤率を以て土地の改良及耕作に使用され得可きよりも、一層大なる資本を、或期間後には創造するであらう。而して此資本中の剩餘部分は、自國內に於て工匠及製造者を使用する事に、自然的に轉向されるであらう。（同上第二卷一六九頁）

E、リストの農工商時代

技術及熟練の漸次的改良に因る此等農業國民の製造品の低廉なる事は、或期間後には、その販路を內國市場外に擴張し、此製造品を多くの外國市場に輸送するであらう。而して此製造品は、此等外國市場から、是と同樣にして漸次に、かゝる商業國民の製造品中の多くのものを驅逐するであらう。（同上第二卷一六九頁）

C—E、農業時代より農工商時代へ

其故に事物の自然的成行に從へば、隆昌膨脹しつゝある各社會の資本の大部分は、第一には農業に向けられ、次で其後製造業に向け、られ、而して最後に外國貿易に向けらる。而して事物の此順序たるや、極めて自然的のものにして、從つて苟くも領土を有せし各社會に於ては、確に、其程度に大小强弱の差こそあれ、兎に角或程度に於て、常に觀察されてゐた事柄である。されば相當の都會が建設せられ得る以前に、彼等の土地の或部分は耕作されて居たに相違なく、又彼等が自ら外國貿

易に從事しやうなどと考へつき得る以前に、既に或種の粗雜な工業的性質を有する產業が是等の都會に於て營まれてゐたに相違ない。(同上第一卷三五九頁)

A—E、リストの狩獵及漁獵時代より農工商時代へ

通常稱せらるゝ如く、狩獵人や牧羊者の未開社會に於ては、又更に製造業の改良或は外國貿易の擴張よりも以前に存在する原始的農耕狀態に於ける農民の未開社會に於てすら、……(同上第二卷二六八頁)

余は此等の論證によつて、C. Köhler (Problematisches zu Fr. List) 及び特に Ladenthin (Zur Entwicklung der nationalökonomischen Ansichten Fr. Lists)に與みしやうと欲しない。何となれば、彼等はリストの批判をなすに當つて、これ〳〵の思想は既に何處かで發表されてゐたものであるや否やに、餘り强く拘泥したるの傾向があり、而もこの事たるやリストの如き强き個性の判斷を誤らしむる虞があるからである。乍然、かの Plenge 教授と Bücher の論爭に於て、經濟發達階段創始の問題が徹底的に議論された位であるから、此論文も亦恐らく何等かの意義を有するものと認められて然るべきであらう。殊に本論文に於ては經濟發達階段說一般の思想を問題にして居るからである。

前揭AよりC迄の引用章句は、たとへその思想が他の場合に於て、反覆叙說されて居るにしても、スミスの著作の多少皮相的部分、即ち軍事と司法制度に關する章より引けるものなる事を我々は認める。

反之、工業が先づ發達し、後に至つて初めて外國商業が發達するとの思想は、スミスの體系の極めて中心的部分より發してゐる。

何れにするも、上述の引用句により、リストの經濟階段說の眞實なる萠芽的思想はアダム・スミスにありと證明せらるべく、その思想がスミスの體系に對して根本的意義を有するや否やを問ふの必要はないとの結論をなすに充分であるといつて差支ない。」

× × × × ×

ヘランダー教授の所說は右の如く簡單なものであるが、リストの說が果してその獨創なりや否やの問題に對し一つの石を投ずるものとして注目すべきものである。

元來、リストがかの經濟發達の階段を研究せるは、彼が商業政策の研究をなすに當り、時と所とに應じて適當なる政策を樹つる爲には、歷史を鑑みる必要ありとして經濟發達の階段を考究したのである。從つて經濟發達階段其れ自身は研究の目的ではなかつたが、秩序的組織的に各時代より次の時代への變遷を考へてゐる。然るにスミスにあつては、前揭ヘランダー教授が引用せる章句其他について考察するも、此點が甚だ曖昧である。卽ち狩獵時代、牧畜時代を經て農業時代となり、農業が或程度迄發達すれば農業に集中せられたる資本は工業に向けられ、次で外國貿易に向けられると云ふに過ぎないのである。而も此過程たるや自國領土以外に植民地を有する國にして然るのであつて、凡ての社會がかくの如き發達階段を經過するものであると主張するのではないやうである。

次にリストはその著 Das nationale System der politischen Oekonomie, 1841[2] に於て、『國民經濟は階段的に發達して行くものにして、歐洲に於て數世紀を通じて行はれたる道程は、野蠻の狀態より牧畜の狀態に進み、更に農業の狀態に入り、それより工商業の狀態に進むものなり。』と說き、彼は歐洲の事例を基礎として研究せりと云へるも、Hildebrand の研究によれば、[3] 實は英國の歷史を基礎として階段說を樹立せるものゝ如くである。反之、スミスはその當時の各國の狀態を地理的に比較研究してゐる。例へば狩獵民の事例には北アメリカの土人、牧羊民の事例には韃靼人、アラビヤ人を引用せるが如きは、兩者の研究方法並に意圖に於て、明かに差違の存せる事を示すものである。

而してスミスもリストも共に生產の形態より經濟社會の發達を觀察せる事は明かであるが、此方面より經濟の發達を觀察するの方法が古く

2) Sammlung sozialwissenschaftlichen Meister, 3. 1904. S.11.
3) Hildebrand; Naturwirtschaft, Geldwirtschaftl, und Kreditwirtschaft. (Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik, Zweiter Band.) S. 1-2.

より行はれてゐた事は、世人の汎く知る所であつて、[4]卽ち Aristote はその著 Politics に於て諸人民を牧羊者、農耕者、海賊、漁魚者、狩獵者に區別してゐる。併し乍らこの區別は平面的觀察であつて、經濟の發達階段と云へる垂直的觀察ではない。其後十八世紀に及んでスミスと殆んど時を同じうして、愛蘭の Furguson の著作にも此思想があらはれてゐる (Essay on the History of civil society, 1767)。又佛蘭西の Condorcet (Prospectes d'un tableau des progres de l'Esprit humains, Introduction. 1793) は人類の進歩を十階段に分ちその始めの三階段は、漁獵時代、牧畜時代、農業時代であると論じてゐる。從つてリストの階段說を以て直ちにスミスの思想を轉回したものであるとはいへない。

併し乍らリストの諸研究が自由主義と保守主義卽ち英國主義と大陸主義との思想的鬪爭より生れ出たものであつて、當時政策上、思想上に重大なる影響を及せしスミスの思想を直接間接に受容してゐた事は諸種の事情よりして首肯し得らるゝ所である。此の故にリストがスミスの影響又は示唆によつて此の階段說を樹てたにしても、かの往年ブレンゲ敎授が、ビュッヒャーの階段說は Schönberg の思想に基くものとし、財貨流通の過程の長短による階段說樹立者たるの王冠をビュッヒャーより奪はんとせし顰に倣ひ、生產の形態より觀察せる經濟發達階段說創始の功をスミス一人に歸せしめんとする必要はないであらう。リストが之を一の階段說として、而も最初の階段說として組織立てたるの功を忘れてはなるまい。